

生物介在療法学特論 (2単位)

担当者氏名 太田光明・浅野房世

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

生物を介在させて、人間の治療に役立たせた歴史は長い。本稿では、特に、植物での介入と動物（馬）での介入に基本的なことについて学ぶ。

なぜ人は、植物から癒しを受けられるのか？あるいはそれを療法として、活用するという行為は、何なのか？もっとも必要とされる植物介在療法のスキルとは何なのか？これらのことを踏まえながら、植物を療法的に用いることの人間学的意味や、どのような治療構造のもとにおこなわれるべきかを学ぶ。また、動物介在療法・活動・教育（動物介在介入；Animal Assisted Intervention: AAI）の基本構造を学び、人と動物の関係における位置づけについて考える。介在動物、障がい、そして教育についての基礎的知識とともに実践内容を学び、今後の生物介在療法の展望を検討する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

ヒトの進化 リハビリと自然 生物介在療法 支援
障害

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	動物介在療法学の基本構造	ヒトと動物の関係学における AAI	AAI の位置づけと未来。介在動物の特性からその有用性を理解する。
2	介在動物の特性と選択	介在動物の特性と対象に応じた選択	特に、子どもや高齢者への効果を理解する。
3	子ども、高齢者、障がい者に対する動物の効果	子どもおよび高齢者の心理、身体的特徴と動物による心身への影響	動物がもたらす人の心身に対する健康効果の理解から、様々な対象、疾病、障がいへの動物の適応について造詣を深める。
4	障がい者の社会的支援制度	障がい者の社会的支援制度と適切な対応	介在動物の福祉的取り扱いについて理解を深める。
5	対象となる疾病・症状	対象となる障がいや疾病・症状および禁忌	AAI における医療・福祉の特色を理解し、我が国における将来的展望について検討する。
6	介在動物の福祉および飼育管理とトレーニング	介在動物のトレーニング等、行動学的観点からその扱いと福祉について学ぶ。	霊長類の進化と人間の特性に関する書籍を読む
7	医療施設における動物介在プログラム	我が国・諸外国における医療機関等における AAI の実際。	
8	人間の進化と発展 (1)	植物と動物を使う面白さ、難しさ	
9	人間の進化と発展 (2)	歩行は何を与えたか？	
10	人間の進化と発展 (3)	咽頭の構造と言葉	
11	人間の進化と発展 (4)	意思を伝える発達	
12	癒しから療法への転換	自己意識の芽生え	
13	植物での治療の特性	他者を癒す意識	
14	治療構造	植物を活用する治療とはなにか	
15	総括	必要な治療構造	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

生きられる癒しの風景 (人文書院)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社）ほか、授業の中で提示する

進化の隣人 松沢哲朗

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート，討論への参加度を通じて評価を行う。

◆オフィスアワー

太田 随時メール等でのアポイントメントの上、研究室で質問等を受け付ける。浅野 水曜 昼

◆その他受講上の注意事項

動物介在療法・植物介在療法に関係する科目を予習しておくこと。
